

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的・基本的な知識・技能の定着
- ②思考力・判断力・表現力を伸ばすための言語活動の充実
- ③児童の主體的な学びを確かなものにするための、授業展開の工夫や指導の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上 推進員委員	委員	教務主任	：辻野 智美	
	特別援学級主任	：渡邊 まゆみ	2 学年主任	：徳元 昌子
	3 学年主任	：櫻井 由美子	4 学年主任	：山田 裕也
	5 学年主任	：林 誠二	6 学年主任	：蔭山 敦子
新見 佳代				

校長

田上 尚

(1)知識・技能の習得

【各校の取組状況の 把握について】

評価カードを用いた教員の自己評価や、管理職による授業参観など様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○年度末の児童アンケートでは、「学校で勉強していることがよくわかる。」の質問に「そうだ・たぶんそうだ」と答えた児童の割合が、96%だった。前年度の93%に続き高い水準で推移している。</p> <p>●前年度、「四則計算の確認テストで正答率9割以上の児童」(全12クラス・2学期末時点の評価)は、達成率は上学年が57%、下学年が75%だった。上学年が80%以上、下学年が85%をめざすという目標には届かなかった。</p> <p>「漢字の確認テストで、正答率が9割以上の児童」(全12クラス・2学期末時点の評価)は、達成率は上学年が77%、下学年が83%だった。上学年が80%以上、下学年が85%をめざすという目標には届かなかった。</p> <p>○年度末の児童アンケートでは、「進んで読書に取り組むことができています。」の質問に「そうだ・たぶんそうだ」と答えた児童の割合が、75%だった。前年度の76%に続き、伸び悩んでいる。</p> <p>●学力における二極化傾向が顕著に見られる。それぞれの児童に対応した学習の進め方に配慮を要する。</p>	<p>○四則計算の確認テストで、正答率が9割以上の児童を、上学年は80%以上、下学年は85%以上にする。</p> <p>○漢字の確認テストで、正答率が9割以上の児童を上学年は80%以上、下学年は85%以上にする。</p> <p>○進んで読書(週に1冊程度のペース)に取り組み、好きな本や興味のもてる本を増やす。週に1度、図書室を利用することを習慣化する。</p>	<p>○朝の活動の時間に、曜日を決めて、漢字・計算のドリル学習や小テストを行い、おぼえられない漢字の確認やポイントをしぼった練習ができるようにする。</p> <p>○漢字練習帳の使い方を正しく教え、進んで練習に取り組めるようにする。</p> <p>○「正しい鉛筆の持ち方」や「正しい姿勢」を具体的に指導するとともに、新出漢字を学習する際には、漢字ドリルを使ってとめ・はね・はらいをていねいに指導する。</p> <p>○朝の会などで、ドリル「話す聞くスキル」等を利用して、継続的に発声練習を行う。</p> <p>○進んで読書ができる児童を増やすための方策を、全職員で取り組んでいく。</p> <p>各学級が毎週1回、図書室に行き、全員が図書室の本を借りることができるようになる。</p> <p>図書館教育担当の教員を中心にして図書室や教室の環境整備に取り組む。</p> <p>朝の学習時間を利用して、読書活動に取り組む。</p> <p>保護者への啓発も、同時に行っていく。</p> <p>○新聞等を活用し、感想を書いたり、内容を要約したりする。</p>	特になし	<p>○年度末の児童アンケートでは、「学校で勉強していることがよくわかる。」の質問に「そうだ・たぶんそうだ」と答えた児童の割合が、93.8%だった。前年度の96%に続き高い水準で推移している。また、年度末の保護者アンケート「教職員は、わかりやすい授業をしている。」の質問に「そうだ・たぶんそうだ」と答えた保護者の割合が、94.7%だった。前年度の95%に続き高い水準で推移している。</p> <p>○「四則計算の確認テストで正答率9割以上の児童」(全12クラス・2学期末時点の評価)は、達成率は上学年が79.5%、下学年が80.3%だった。上学年が80%以上ではほぼ達成し、下学年が85%をめざすという目標には届かなかった。</p> <p>○「漢字の確認テストで、正答率が9割以上の児童」(全12クラス・2学期末時点の評価)は、達成率は上学年が82.8%、下学年が74.6%だった。上学年が80%以上は達成し、下学年が85%をめざすという目標には届かなかった。</p> <p>○上記2点と「基礎基本の定着や読書活動の推進のために、指導方法の工夫をし、実践している。」「子供の学びを大切にしたいわかる授業ができています。」という教職員自己評価については、9割以上の教師が「よくあてはまる」「概ねあてはまる」と回答している。</p> <p>○図書館教育担当の教員を中心にして図書室や教室の環境整備に取り組んだ。朝の学習時間等を利用して、読書活動に取り組む学級も多くあった。</p> <p>しかし、年度末の児童アンケートでは、「進んで読書に取り組むことができています。」の質問に「そうだ・たぶんそうだ」と答えた児童の割合が、73.5%だった。前年度の75%に続き、伸び悩んでいる。実際、隙間時間に読書をしている児童の姿が多く見られる。</p>	<p>○年度当初に、学年ごとに取り組む具体的方策を作成し、研修の時間に共通理解を図った。今後も、引き続き児童の実態に応じた方策を、発達段階に応じて行っていく。</p> <p>○次年度は、朝の活動を曜日ごとに何をするかを決めて取り組んでいくことを検討していく。また、前年度等の既習事項の復習も取り入れる。期末だけでなく、学期途中で、形成的評価(小テスト)をし、指導法を再確認していく。</p> <p>○進んで読書ができる児童を増やすための方策を、さらに全職員で取り組んでいく。具体的には図書委員会を中心にして、各学年に応じた「おすすめの本」や「本の紹介」等を掲示し、児童に読書活動の啓発を行っていく。朝活に読書の時間も設け、週に1度は図書室に行くようにする。教師等による読み聞かせも行う。保護者への啓発も、同時に行っていく。</p>

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○静かに落ち着いて話を聞くという自覚は、一人一人が持っており、学習規律を守ろうとする学級・学校の雰囲気は育っている。</p> <p>●意欲はあるものの、話を正しく最後まで聞き取ることができない児童が見られる。そのため理解が不十分だったり、見通しをもって活動できなかったりなどの様子が見られる。</p> <p>●初めて目にする文章を正しく音読できなかったり、主語や述語をとらえて意味・意図を正しく読み取ることができなかったりする児童が多い。</p> <p>○ノートやプリントなど、書く活動にこつこつまじめに取り組む児童が多い。</p> <p>●昨年度末の児童アンケートでは、「自分の意見や考えを進んで発表することができています。」の質問に、「そうだ・たぶんそうだ」と答えた児童の割合が、75%だった。前年度の75%と同等であった。さらなる伸びをめざしたい。</p>	<p>○友達の発表や教師の言葉を、最後まで落ち着いて聞くことができる。</p> <p>○学年に応じた読解力を身につけ、教科書の文や問題文の内容・意図を正しく読み取ることができる。</p> <p>○友達との意見の共通点や相違点に着目して、自分の考えをノート等にまとめることができる。</p> <p>○相手に伝わるように理由や事例などを挙げながら、場に応じた適切な言葉遣いで、自分の考えを話すことができる。</p>	<p>○聞き方名人・話し方名人の掲示や「発表ナビ」「声のものさし」「声のダイヤル」等を活用し、聞き方・話し方を常時意識づける。</p> <p>○ペア学習など、授業の目標に応じた学習形態を取り入れ、自分の考えを話す時間・機会を設ける。他者の考えと比較・検討する過程で、考えを広げ深めるよう助言する。</p> <p>○全体の場で自分の考えを言う場面を、週に1回以上つくる。</p> <p>○朝の会でスピーチする機会を設ける。</p> <p>○表現の苦手な児童は、ネームプレートを黒板に貼ることで意思表示をし、授業参加ができるようにする。</p> <p>○文章の要約や条件に従って書く練習を取り入れていく。</p> <p>○学習のめあてを明確にし、自分の考え、みんなの考え、まとめ、ふりかえりがノートにまとめられるようにし、ノートのチェックや評価を適時行う。</p>	特になし	<p>○年度末の教員の自己評価では、「全員のノートやワーク類の点検を週1回以上実施」は85%の教員が、「授業の中で児童が自分の考えを書く時間を確保し、主体的学びにつなげる」について、95%の教員が「よくあてはまる・概ねあてはまる」と答えていた。</p> <p>○年度末の児童アンケート、「自分の意見や考えを進んで発表することができています。」の質問に、「そうだ・たぶんそうだ」と答えた児童の割合が71.7%だった。前年度の75%と続き、伸び悩んでいる。さらなる伸びをめざしたい。</p>	<p>○今年度実施した具体的方策を、すべての教員が実施できるよう、その環境整備と研修の機会をつくっていく。</p> <p>○グループ学習やペア学習など授業の目標に応じた学習形態を取り入れ、自分の考えを話す時間・機会を設ける。他者の考えと比較・検討する過程で、考えを広げ深めるよう助言する。また、引き続き、全体の中で個人が自分の考えを発表する場を意図的・計画的にもうけることにより、表現力を高められるようにしていく。</p> <p>○単元のまとめの学習等で、発表会等互いに学年や他学年と交流する機会をとり、発表することへ意欲を高める。</p> <p>○来年度も、「思考力・判断力・表現力等の育成」を目指した教師の自己評価活動を実</p>

施する。具体的項目について、個々が振り返る機会をもち、常に授業改善を行う前向きな教師集団を目指す。また、お互いの意見に共感し、共に認め合う学級づくりを行う。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○昨年度末の児童アンケートでは、「家庭学習をきちんとしている。」の質問に「そうだ・たぶんそうだ」と答えた児童の割合が、95パーセントだった。教師が出す宿題には真面目に取り組んでいる児童がほとんどである。</p> <p>●自主学習の内容は、個人差が大きく主体的な学習方法が身についているとはいえない。</p>	<p>○授業のめあてをつかみ、自分の考えをもって、話し合い活動などの集団的学びに意欲的に参加している。</p> <p>○日々の課題学習を正確にいていねに行い、個々が工夫して自主学習に取り組んでいる。</p>	<p>○ICTを活用するとともに、「めあて」から「ふり返り」までの授業の流れを大切にしながら分かりやすい授業を行う。</p> <p>○学力向上や授業改善を旨とした、授業研究や研修を計画的に行う。</p> <p>○毎日、1回は自分の考えを書く機会をつくる。ノートの書き方見本や良い例、カードなどを示す。学習の足あとが分かるノート指導を行う。</p> <p>○児童の主体的な体験や活動を授業や学校生活全般に取り入れる。(ICT機器の活用やホワイトボードミーティング等)</p> <p>○適切な自主学習ノートの例を紹介しながら、週末等に自主学習を促す。学年始めだけでなく、様々な機会を捉えて「家庭学習の手引き」等の活用を積極的に行う。</p> <p>○学習ルールの定着と互いの人権を尊重し、共に認め合う学級づくりを行う。</p>	<p>特になし</p>	<p>○年度末の教員の自己評価では、「授業の中で、児童の主体的な体験や活動を積極的に伝えている」について、95%の教員が「よくあてはまる・概ねあてはまる」と答えていた。</p> <p>○年度末の児童アンケートでは、「家庭学習をきちんとしている。」の質問に「そうだ・たぶんそうだ」と答えた児童の割合が、90.9%だった。教師が出す宿題には真面目に取り組んでいる児童がほとんどだった。</p> <p>○自主学習については自ら工夫して行う力が、十分にいるとはいえない。さらに指導が必要である。</p>	<p>○理解が難しい児童の指導や、授業力向上を目指した研究授業等を計画的に行う。</p> <p>○「めあて」から「ふり返り」までの授業の流れを大切にしながら分かりやすい授業を引き続き行う。「ふり返り」をすることで、理解する・考えるといった自分の認知能力を客観的に認知する能力を高めていく。</p> <p>○学習に対して受け身的な考えの児童が多いので、話し合い活動の中で、自分の考えを考え直す「自己調整」できる児童の育成をめざすための授業展開をしていく。</p> <p>○学年始めだけでなく、様々な機会を捉えて、発達段階に応じた家庭学習の方法について、指導していく。さらに、「家庭学習の手引き」等の活用を積極的に行う。</p> <p>○タブレットを、有効に活用しながら、児童の自発的学習を生む方策や授業改善について研修していく。</p> <p>○自主学習の仕方の指導(内容やノートの使い方等)を年度初めに行い、様々な機会を捉えて「家庭学習の手引き」等の活用を積極的に行う。</p> <p>○「総合的な学習の時間」や「生活の時間」を軸にしてカリキュラムマネジメントの視点を取り入れた指導の工夫をしていく。</p> <p>○単元に入る前に、単元を通して身につける力を明確にして、計画を立て授業展開していく。</p>

令和5年度 学力向上ロードマップ



